

選択の先にあるもの

—ある理系学生の後期課程—

青木 優 (進学情報センター)

7月に発行した進学情報センターニュースでは、小生の体験をもとに『ある理系学生の進学選択』なる散文を書いた。執筆にあたり、教務課の方には倉庫の奥から当時の資料を発掘していただき、妻には文章の添削をしてもらった。この場を借りて厚く御礼申し上げる。主な読者である学生の方たちがどう評価しているか皆目見当がつかないが、アドミニストレーション棟事務室の間では意外と評判が良いとのこと、やはり評価されると嬉しいものである。ただ、夏休みでグダグダしている9歳の息子に読ませたところ、「成績60点台だったー、キャハハハッ」と笑われたのには閉口した。「息子よ、そのうちわかる時がくる」の心境だ。(別にわかる時がこなけりゃ、こなくてもよいのだが) さて、進学振分けで教養学部基礎科学科第一に内定したところまでは書いたが、少々尻切れトンボになった感が否めない。そこで、後期課程に進学内定した後のことを書いてみようと思う。

内定者が決まり、各学科でガイダンスが開催されるのは昔も同じであった。掲示板に内定者(60人弱いたと記憶している)が貼り出され、自分の名前(学籍番号だったかな?)があるのを確認して意気揚々とガイダンスに向かう。基礎科学科第一は4号館という建物に存在した。ラグビー場や第一グラウンドの南側にあったのだが、(表紙の建物配置図を参照)耐震強度の問題(危険建物認定)で取り壊しとなって今はもうない。見知った顔は前期課程で同じクラスの友達一人、あとは知らない人ばかりであったが、例のごとくそんなことはまったく気にしない。様々な資料が配られ、どのようなカリキュラムで授業が行われるか説明を受ける。右の表は平成元年4月に発行された教養学部便覧Ⅱ(後期課程)133頁¹

¹ 当時の便覧には、教養学部教官名簿と称して教授から助手まで教官全員の自宅住所と電話番号が記載されている。個人情報の保護も何もあったものではないが、それほどおおらかな時代だったのかなとも思う。

を切り取ったものである。進学情報センター面談室内で発掘した。これを見て思い出したのだが、基礎科学科第一には数学・物理系のIコースと化学・生物系のIIコースに分かれていた。僕はIコースを(なんとなく)選んでいたのだが、驚くべきは必修科目の多さである。◎と○がIコースの必修科目なのだが、4学期(今でいうところの2Aセメスター)に開講されている講義、演習、実験は全てとる必要があるではないか。3年生以降は選択の幅が増えているのだが、少なくとも2年生の間は授業の選択ができない選択をしてしまっている。授業科目はシンプルかつバラエティに富んでいる。解析・代数といった数学、量子力学や電磁気学光学は物理学、分子科学、無機・有機といった化学、そして(協関)生物学、さらに数物化生の内容を網羅した基礎科学実験学がある。4学期に実験があるのはかなり珍しいのではなかろうか。「これがこの学科の特長、広く浅く、、、もとい広く深く科学を学ぶということか」と感心した次第であった。(決して学ばせられるとは思っていなかった、ハズである)

(3) 平成元年度授業計画

基礎科学第一科目学期配当表

注意 ◎印I・IIコース必修 ○印Iコース必修 ※印Iコース 選択必修 ☆印IIコース必修
無印選択科目

	科 目	単 位	科 目	単 位
4学期	◎ 解 析 I + 演 習	3	◎ 無 機 化 学 I	2
	○ 代 数 学 + 演 習	3	◎ 機 化 学 I	2
	◎ 量 子 力 学 I	2	◎ 協 関 生 物 学 I	2
	◎ 電 磁 気 学 光 学 I + 演 習	3	◎ 基 礎 科 学 実 験 学	2
	◎ 分 子 科 学 概 論	2		
5学期	◎ 解 析 II + 演 習	3	無 機 化 学 II	2
	※ 解 析 折 射 演 習	2	☆ 生 機 化 学 II	2
	○ 量 子 力 学 I 演 習	1	☆ 生 機 化 学 II	2
	○ 量 子 力 学 光 学 II	2	生 協 関 生 物 学 学 実 験	2
	○ 電 磁 気 学 光 学 II 演 習	2	◎ 基 礎 科 学 実 験 学	3
	◎ 統 計 熱 力 学 I + 演 習	3	◎ 外 国 語 教 育	1
	◎ 固 体 物 理 学 I	2	◎ 外 国 語 教 育	2
	◎ 分 子 結 晶 学	2	◎ 統 計 熱 力 学 II	2
6学期	○ 解 析 IV + 演 習	3	有 機 化 学 III	2
	○ 量 子 力 学 II 演 習	2	生 分 子 生 物 学 実 験	2
	※ 量 子 力 学 講 義	1	◎ 基 礎 科 学 実 験 学	3
	※ 固 体 物 理 学 II	2	◎ 外 国 語 文 学 講 義	2
	※ 電 子 工 学 演 習	2	◎ 外 国 語 文 学 講 義	2
	☆ 分 子 分 光 学 I	2	◎ 外 国 語 文 学 講 義	2
	☆ 分 子 分 光 学 II	2	◎ 外 国 語 文 学 講 義	2
	☆ 分 子 分 光 学 III	2	※ 統 計 熱 力 学 II	2
	◎ 物 理 化 学 特 殊 講 義 I	2		
	◎ 外 国 語 文 学 講 義 II	2		
7学期	解 析 V + 演 習	3	☆ 物 理 化 学 演 習 学 析 I	1
	確 率 統 計 + 演 習	3	☆ 放 射 学 化 学 特 殊 講 義 II	2
	流 体 力 学 弾 性 学	2	有 機 化 学 特 殊 講 義 III	2
	固 体 物 理 学 III	2	有 機 化 学 特 殊 講 義 III	2
	電 子 工 学 II	2	生 分 子 生 物 学 学 実 験	2
	分 子 分 光 学 II	2	生 協 関 生 物 学 学 実 験	2
	物 理 化 学 特 殊 講 義 II	2	◎ 外 国 語 文 学 講 義	2
	◎ 基 礎 化 学 実 験 学	2	◎ 外 国 語 文 学 講 義	2
	◎ 外 国 語 文 学 講 義 II	2	◎ 外 国 語 文 学 講 義	2
			◎ 基 礎 科 学 特 別 研 究 講 義 I ~	1~2
8学期	結 晶 学 特 殊 講 義 I	2	◎ 基 礎 科 学 特 別 研 究 講 義 II	2
	原 子 核 物 理 学 II	2	◎ 外 国 語 文 学 講 義	2
	物 理 化 学 特 殊 講 義 II	2	◎ 数 理 学 教 育	2
	特 殊 講 義 I ~ II	1~2	◎ 数 理 学 教 育	2

注) 生体構造論と分子生物学IIは隔年で授業を行う。

そんなこんなで授業が始まった。担当の先生は同じ教養学部でも随分顔ぶれが違っていた。というのも、今でこそかなりマージされている前期、後期各課程教育の担当が、その当時はかなり区割りされていたようなのだ。(ただ、三年生以降の授業は前期課程の先生も担当しており、なじみのある先生が授業をしてくれた科目もあった) 顔ぶれが違うからといって動じることはまったくなかったのだが、数物系の授業(特に数学)は僕にとって難解だった。特に『解析Ⅰ』はこの先二年半にもわたり鬼門となった講義だが、当時はそんな先?のことは予想だにしていなかった。大学に入ったばかりの時も思ったのだが、数学をツールとして使うことと学問として学ぶことにはかい離があると再認識した次第である。この頃位からであろうか、僕が物理、化学、生物といった王道の学問・研究ではなく『境界領域』といった学際分野に興味を持ち始めたのは、高校時代の物理の先生が、「もし俺が学生時代に戻ることが出来たら生命科学をやりたいな」と言っていたが、それに近い心境なのだったのだろうか。今となっては当時の指向変化についてはよく思い出せない。

基礎科学科第一に進学した人達はやはりバラエティに富んでいた。運動会に所属している人や駒場寮に住み着いている人も他学科と比べて多かったはずだ。進学以前に吹き込まれた『アウトローの集まり』とは少し違うような気がする。何と言おうか、前期課程の同級生と比べて真面目な人と不真面目な人のスペクトル幅が広いというか、こだわりのある人が多いというか。例えば僕の実験パートナーは、頭はすごくよかったのだが壊滅的に手先が不器用で、くそ真面目な(融通の利かない)男だった。僕とは真逆なキャラクターなので、凸凹が上手くかみ合えば素晴らしいチームワークを発揮し、実験も上手くいく。しかしこれがかみ合わなかったとき、ある種の悲劇が生まれることになる。真面目なので実験操作を積極的にやりたがるが、不器用で適当に操作ができない。その彼を横目で見ている僕、少しず

つイライラが積もる。この状況を如何に打破するか、「俺にやらせろー!」と言って実験器具を奪い取ったことも一度くらいはあったと思う。

そんなこんなで瞬く間に半年が過ぎた。ただ「さあ、皆さん仲良く三年生に進学だ」という風に都合よくはいかなかった。内定者のうち15人程度が黒マジック²を喰らい、進学者が4分の3にまで減少してしまったのだ。これは僕にとって四半世紀経った今でも明確に憶えているほどの大事だった。僕は同じ学科の同志が減ってしまうという気持ちになっていたのだろう。勿論、進学取消になった当の本人達にとっての大事なのだが、本人達は果たしてどういう心境なのだろうとふと考え直した。前期課程の単位を落として仕方なく進学できなかった人達もいたかもしれないが、『進学をしない選択』をした人が多かったのではなかろうか。前期で同じクラスだった友達も取消になった内の一人であったが、思い起こせば定期試験直前に右手を骨折したため、満足な点数を取ることが出来なかったはずだ。本当に行きたい進学先に行くことが出来るよう、捲土重来を期すという人がいてもそれはそれで選択の一つだ。そのまま進学する選択をした者、そうでない者、両者ともその意志を尊重すべきなのだろう、と少し感傷的な気分で新しい学年を迎えた僕だった。

今回の話は進学内定後の選択の話であるが、今思えばこのような選択を迫られるような大事は如何なる人でも経験するものである。要は自分で納得できるかどうかの問題なのだと思う。一年生はこれから進学先のことについていろいろ考え始める時期だろうし、二年生は進学選択先が決まりつつある中、自身で納得する決断をその都度してほしいものだと思う。二回にわたり続いた僕の話はこれでひとまず休憩しようかと思う。次回はどんな人を書いてもらおうか、有名人にはあまりツテはないが、皆さんに役立つ話を書いてくれる人を探さねばと今から思っている。

² 黒マジック；僕の学生時代はすべてのお知らせがアナログで、正門横の掲示板が唯一であった。進学内定者が掲示され、半年経つと内定が決定となるのだが、例えば前期課程の単位を落としてしまうと内定

が取消になる。この時、取消になった人の部分が黒マジックで塗りつぶされるのだ。因みにマジックのインクが薄く、誰が取消になったか判ってしまうという都市伝説もささやかれていた。